

重点11 教職員の研修の充実

2 大学連携

ねらい

子どもたちの学力を向上させるためには、教職員の専門性を高める必要があります。そこで、四日市市では三重大学教育学部と協定を結び、教職員の指導力の向上を図ることをめざして、幼稚園・小中学校に大学の教官を招き、研修を行っています。

現状と課題

各学校・園の希望をもとに大学と調整を行い、研修を行いました。その内容と回数は、次のとおりです。

平21年度三重大学教育学部との連携による研修活動実績

	特別支援	教科指導全般 (評価等を含む)	学校園経営	家庭(食)	国語	算数数学	理科	図工美術	あそび保健体育	道徳等	生活総合	多文化共生・日本語指導	合計
幼稚園	16		0	2					2			1	21
小学校	14	4	2	1	8	10	1	0	12	2	1	0	55
中学校	11	12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	26
合計	41	16	2	3	8	10	1	1	14	2	1	3	102

以下は、取組の成果を整理したものです。(※ 各校園からの感想を一部抜粋)

- 専門的な知識の理解が深まったり技能が高まったりして、実践への活用が図られました。
 - ※ 「コミュニケーション力の育成を図る」ためにどんな授業を創っていく必要があるか話し合い、考えることができた。教官に悩みや疑問を尋ねながら、今後の方向性を確認することができた。教材研究の方法や子どもがかかわり合う場の設定の仕方など学ぶことができた。
- 学力や「学び」の意味の理解が深まり、授業づくりに生かすことができました。
 - ※ 各教科の意味は、それぞれの文化内容から導かれている。教科を学ぶ意味は人間としてよりよく生きるための意味を賞味し、その術を知り、新しい文化創造の担い手を育てていくことである。
- 継続的な派遣により子ども理解が深まるとともに、保護者との関係構築に役立ちました。
 - ※ 1回目の研修を受け、2回目に向けて教師が目的を明確にしながる取組を進めたので成果につながった。継続して研修を受けることができたことに大きな意義がある。
 - ※ 課題を感じる子どもや保護者に対する対応について理解が深まった。間近に迫った個別懇談会の持ち方に生かしていきたい。
- 授業研究会、研修会の体制が改善されました。
 - ※ ビデオを通した授業研究についてビデオ撮影を有効にするためのポイントや撮影技術、授業検討での視点のあて方などをご指導いただいた。

今後の方向性

- 大学との連携による研修が定着してきている学校が見られます。それを継続するとともに、外国語活動や日本語指導に関する研修など、新たな分野でも連携できるよう努めます。
- 講義を受けるだけでなく、研修の方向性や指導についての検討の場でも連携することにより、系統的な指導を受けることができるよう方策を探っていきます。